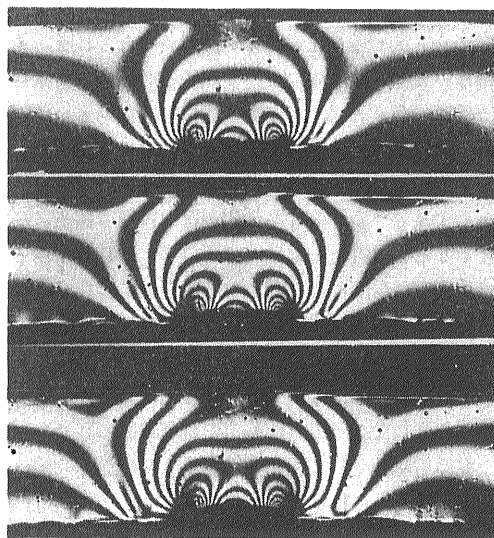
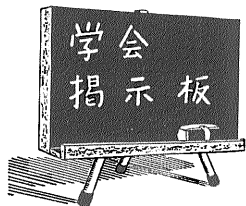


や原子間距離にはせいぜい数%程度の差しかない。そのため 気相や溶液相からの成長とは異なり 融液相からの成長では濃縮によって核形成がおこらず 過冷却状態の到達によって核がつくられ結晶が成長する。また液相から固相への輸送距離もきわめて短かく 1分子かせいぜい数分子の距離と考えられている。このような特徴をもっているので 液相と固相との境界面は 特殊な結晶をのぞいては荒れた曲面になり 気相や溶液相からの成長のように平坦な低指数の結晶面にならない場合がより一般的である。そのため 結晶の成長は液相-固相の界面に垂直な方向の様な成長としておこなわれ成長層の2次元的なひろがりや過巻成長などによらない場合の方が多くなるはずである。ダイヤモンドの表面構造の観察結果と上記の考察をくみあわせると ダイヤモンドは固相からの再結晶作用によってでも 融液相からの成長でもなく 溶液相からの成長であると考えざるをえない。溶液相からの成長という意味は炭素がマグマ(珪酸塩溶液)の中に溶解しており 温度や圧力条件の変化によってマグマが炭素に関して過飽和状態になった結果ダイヤモンドの結晶成長がおこったということである。(つづく) (筆者は鉱石課長)



訂正  
地質ニュース No. 161 の「地質構造の光弾性モデル」のうち 第12図(20ページ)の下から2番目の写真は 上掲の写真のあやまりです。また第4図(16ページ)に引用文献(応力測定法 1956)が脱落していました。おぼびと共に訂正いたします。



・石炭科学国際会議

1. 昭和43年6月10日~14日
2. 石炭化作用・熱分解・ガス化・石炭組織に関する講演会
3. Mining Institute of the Czechoslovakia, Academy of Science

my of Science

4. 石炭科学国際会議
5. Mining Institute of the Czechoslovak Academy of Science, Praha.

・国際写真測量学会

1. 昭和43年7月8日(月)~20日(土)
2. 撮影および航法 図化理論および機械 航空三角測量 地形測量 地形測量以外への応用 用語・教育および歴史写真判読の7つの部門ごとに あらかじめ決定された重要な主題について 決められた報告者の報告をもとにして討論を行なう
3. スイス ロザンス
4. 国際写真測量学会・スイス写真測量学会
5. Secrétariat du XIe Congrès International de Photogrammétrie: Institut de Photogrammétrie EPUL, 33, avenue de Cour, 1000, Lausanne Suisse.

・国際粘土会議

1. 昭和44年9月5日~15日
2. 1969年国際粘土会議(粘土鉱物の結晶構造 成因その他)
3. 日本

4. 国際粘土研究連合(Association International Pour l'Etude des Argiles-AIPEA)
5. 東京都文京区大塚3丁目  
東京教育大学理学部地質学鉱物学教室内  
1969年国際粘土会議組織委員会

・日本分光学会

- A. 1. 昭和43年3月30日(土)~4月1日(月)
2. 第15回応用物理学関係連合講演会
3. 東京工業大学(目黒区大岡山2-12-1)
4. 日本分光学会
5. 東京都新宿区百人町4-400  
東京教育大学光学研究所内  
日本分光学会 Tel 東京(03)362-7881
- B. 1. 昭和43年5月24日(金)~25日(土)
2. 昭和43年日本分光学会通常総会・講演会
3. 国立教育会館(東京都千代田区霞ヶ関3-2)
4. 日本分光学会
5. 東京都新宿区百人町4-400  
東京教育大学光学研究所内  
日本分光学会 Tel 東京(03)362-7881

・物理探鉱技術協会

1. 昭和43年4月25日(木)~27日(土)
2. 創立20周年記念行事及春季講演会
3. 創立20周年記念行事……………機械振興会館  
春季講演会……………早稲田大学小野講堂
4. 物理探鉱技術協会
5. 神奈川県川崎市久木135 地質調査所内  
物理探鉱技術協会  
Tel. (044)-83-3171

[注] 1. 開催年月日 2. 会合名 3. 会場  
4. 主催者 5. 連絡先(掲載順位は原稿到着順)